

令和7年度

学校法人北照高等学校 学校評価書

学校法人 北照高等学校
理事長 小路 修司 様

令和7年度学校関係者評価を、教員自己評価・校務分掌、学年の自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果に基づき下記の通り取りまとめましたので報告いたします。

1. 学校関係者評価の実施について

- ①令和8年6月 学校法人北照高等学校理事・評議委員会の中で実施予定
- ②令和8年4月29日 北照高等学校PTA総会が流会したため、書面審議の資料に添付

2. 評価項目と評価内容

① 教育活動について

令和7年度は、前年度までのプロジェクト発表会を成果発表会と名称を変更して、自身の1年間を振り返るための行事として位置づけていた。発表の様子から、普通コースの総合的な探究の時間をグロースプログラムとしてまとめ、様々な形で主体的な学習を行えるように改善できたことやスポーツコースにおいても部活動を通じて自己の成長につなげる機会を増やすための指導を心がけていることを感じる事ができた。このことや学校の報告から、生徒が意欲的に学べる環境づくりを進めていることを評価したい。また、生徒指導についても、問題事案の早期発見と解決に力を入れて、その成果が指導事案の減少につながっていることから、取り組みが良い方向に向かっていると考えられるため、継続していただきたい。

② 生徒及び教職員の質問票の分析結果について

生徒の満足度は比較的高い値を維持したものの、昨年度と比較して低下傾向にあること、教職員の自己評価が過去最低の水準となっているとの報告を受け、学校が課題として挙げている通り、原因の解明と改善を強く要望したい。過去の報告を見ると、教職員の自己評価が低下するとそれに合

わせて生徒の満足度が下がる傾向がみられる。教職員が統一された意思をもって、生徒の教育活動にあたることが大切だと考えるため、学校としての具体的な取り組みを期待する。また、生徒が抱える課題や重要と考える項目は年により変化するため、生徒の現状を良く分析し、生徒個々に合わせたきめの細かい指導を継続してほしい。

③ 総 評

令和7年度の教育活動を精査した結果、時代に合わせた教科・生徒指導を行い、一定の成果を上げていることは評価したい。一方で、②で挙げたように、次年度に向けた不安材料も見られることから、教員間、生徒や保護者との関係作りにより一層力を入れて、在校生やその保護者はもちろん、受験生にとっても魅力的な学校づくりを進めてほしい。

上記の通り報告いたします。

令和8年5月10日

北照高等学校保護者と教師の会会長

川口 政康

